

# 同志社大学

## 2011年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2012年 3月 30日提出

所 属	職 名	氏 名
経済	助教	塩津 ゆりか
研 究 題 目	公的年金制度の最適負担に関するシミュレーション分析	
研 究 成 果 の 概 要	<p><b>2011年度の研究</b> 多様な世帯として、高い稼得能力を持つ家計と低い能力を持つ家計を考え、タイプ間での移動がない場合に、各家計が最適出生児数を選択するとき、さまざまな公的年金制度のもとでの最適税率（保険料率）を導出した。この成果は、論文 3)として公表している。 論文 3)に基づき、研究報告 3)を実施した。研究報告 2)では、論文 3)の結果を Collective Model に拡張した場合の最適税率の導出を行った。 このほか、社会保障関連では、共著 1)を出版した。加えて、公共財の最適負担の観点から、論文 2)を公刊し、これに続く研究として、研究報告 4)-6)を行った。</p> <p><b>2011年度の業績</b> 著書・論文 1)『貧困と社会保障制度』（伊多波良雄，塩津ゆりか著），晃洋書房，2011年 2)Haruna Ryo, M. Kuwahara, Y.Shiozu (2011) "Evaluation of Middle and Long term Management Efficiency of Public Museums by Network DEA", <i>Information Systems and Human Sciences</i>, Vol. 17, No. 1 3)「最適な社会保険と所得税の合計負担率と出生率への影響」『経済学論叢』，同志社大学，第63巻 第3号，97-112 ページ，2011年</p> <p>研究報告 1)「過疎地域の社会的ネットワーク形成と幸福感」同志社大学関係論的システムデザイン研究センター第3回シンポジウム，(同志社大学)，2011年9月 2)「モラルハザードと最適所得再分配政策の動学的影響」，日本財政学会第68回大会，(成城大学)，2011年10月 3)“Optimal Social Security Burden Rate and the effect on Birthrate”，<i>Applied Economics Workshop of Kyushu University</i>, (九州大学), 2011年12月 4)“The Operational Efficiency of Public Museums in Japan” with M. Kuwahara, 財政外部性研究会，(愛知大学)，2012年2月 5)“The Operational Efficiency of Public Museums in Japan”，with M. Kuwahara, <i>International Joint Workshop for Doshisha and Its Partner Universities</i>, (同志社大学), 2012年3月 6)“The Operational Efficiency of Public Museums in Japan”，with M. Kuwahara, <i>International Workshop, Political Economy and Related Issues in Public Economics</i>, (Catania University, Italy) , 2012年3月</p>	